

平成30年度第1回

基山町まち・ひと・しごと創生推進会議

(要点筆記)

日時：平成30年8月8日（水）10時00分～11時40分

場所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：14人

森田昌嗣会長、平瀬有人副会長、内山正光委員、田口英信委員
原憲一委員、天本正弘委員、最上賢治委員（代理：湯川俊明）
川内野修委員、挽地正光委員、副島浩次委員、納富賢治委員
岡本哲男委員、田中光一委員、酒井英良委員

欠席委員：0人

事務局：3人

総務企画課：熊本課長、山本係長、則本主事

関係部署：7人

産業振興課：毛利課長、寺崎参事、定住促進課：長野課長、
教育学習課：井上課長、まちづくり課：内山課長、こども課：平川課長、
健康福祉課：中牟田課長

傍聴者：5人

1 開会

2 町長あいさつ

3 委員の委嘱

4 議事

(1) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況及び事業評価について

(2) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略（修正案）について

(3) その他

事務局進行

1 開会

2 町長あいさつ

省略

3 委員の委嘱

町長から委嘱

4 議事

(1) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況及び事業評価について

【基本目標】

① 基山町における新たな雇用を創出する

事務局から説明

－質問等－

- ・(委員) 農地の利活用プロジェクトの荒廃農地解消面積について、平成29年度については11ha解消となっているが、具体的な取組は何か。

⇒(事務局等) 荒廃農地解消面積について、農業委員会で年に1回農地のパトロールを実施している。改善すれば農地として利用できる場所、できない場所を把握している。農地として活用できない部分については、農業委員会で指導・解消の説明・協議を行いながら、実施に無理と思われるときは非農地等の文書を発送しながら今後さらに解消していきたいと思う。

- ・(委員) 荒廃農地の解消がかなり進んだ印象。おそらく、住宅地が変わったと思われる。住宅地に住むときに接道というのが問題となっている。町から補助をいただいて、農地のところを道路としている。残りの農地もそのようにして住宅地にかかわるところもあるのではないか。そのような場所の情報提供を行ってほしい。

- ・(委員) エミューの将来的に飼育する数はどれくらいか。

⇒(事務局等) 企業等に確認したところだいたい500頭ほどをめどにと計画されているよう。

- ・(委員) 事業一覧について、他の基本目標と見比べると、事業効果を表す星が若干少ないように見える。目標年度が31年度までだが、今後目標に向けて加速していかなければ目標達成は難しい。特に雇用など企業側の問題もあるので、ぜひ積極的に改善して欲しい。

【会長】

基本目標①の 11 事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

② 基山町を通過点から交流拠点へ

事務局から説明

—質問等—

- ・(委員) 町外からの転入が増えているが、町外のどのあたりからの転入が多いのか。

⇒(事務局等) 転入人口の内訳として細かいところまでは把握していないが、傾向としてはやはり鳥栖市あたりまでを含めた福岡都市圏が半分以上いる状況である。補助金があることで、近郊のどのあたりに移住するか、もともと福岡都市圏に住んでいる方が、最終的な決め手として基山町にきている方が多いと認識している。

- ・(委員) 転出者数について教えてほしい。

- ・(委員) 子育て世帯や新婚世帯を狙って力をいれているようだが、基山町内の山手の方については空き家が増えてきている。空き家対策にも有効であるかどうかを教えてほしい。

⇒(事務局等) 空き家対策の仕組みとして用意しているのは、空き家バンクに登録していただくことが1つの対策となっている。あとは、個別に相談を受けて最終的に不動産業者につないだり、空き家を含めて入りたいという方のご希望があればそれと結びつけたり、ということを昨年度から引き続いて今年度も行っている。

⇒(事務局等) 加えて、基山町職員の採用にあたって社会人経験枠というのをつくり、今年度不動産の経験者を採用する予定としている。そのような経験者を入れることによって、空き家の対策として直接住民の方と接して物件を紹介したり、斡旋の仲介をしたりなどに寄与してもらえるとということで、来月あたりから採用できるのではないかと考えている。

- ・(委員) 基山町の魅力として、町民の皆様から「緑が豊かである」や「ゆとり」というのが大きな評価としてあるので、あえて基山町の郊外に住みたい、そこに魅力を感じる方もいらっしゃるはずなので、そこにもふれていただきたい。

・(委員) 町のPR活動について、移住体験住宅の利用が平成29年度31件の利用があったということだが、転入した方については全員その利用があったのか。博多でのPRは強く印象に残っているが、体験住宅が移住に影響があったのか。

⇒(事務局等) 必ずしも、移住の前に体験住宅を利用したからということでもない。逆にはなるが、移住体験住宅を利用された方の中で実際に基山町に住んでいただいた方が3世帯あった。基山町に移住することを決めたのは、PRで基山町を知ったり補助金などが移住の選択肢に入れたりということにつながっていると認識している。

・(委員) 基山町のHP閲覧数がかなり増えているが、観光サイトのアクセスが伸びていないことから、基山町のHPにリンクをはるなどすれば観光サイトのアクセスも伸びてくるのではないだろうかと思う。

【会長】

基本目標②の7事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

③ 子どもを育てたくなるまち基山をめざして 事務局から説明

—質問等—

・(委員) 学校施設には全てエアコンが設置されているのか。

⇒(事務局等) 町内の小学校2校と中学校1校の3校の普通教室については、全室エアコンの設置は完了している。

・(委員) 特別教室での学習については支障がでていないのか。

⇒(事務局等) 今年は特に気温が上昇したので、普通教室でできる授業については普通教室で行い、また時間割についても学校の方で生徒に対して影響がでないような時間割の工夫をしてもらったところ。

・(委員) 「8. 子どもを育てる環境づくり」について、グローバルな人材育成や学力アップを図っていかなければならない。その中で、特性のある子どもが増えてきているが、その子どもたちに沿った学習支援が行えるような環境であれば、より子育てがしやすい町となっていけるのではないか。

⇒(事務局等) 基山町の独自の支援策として、地方創生推進交付金を活用して町の

4歳児を対象とした就学準備事業を行っている。小学校にあがる前の準備として、子どもたちの苦手なこと得意なことを子ども一人ずつ専門家の方にみていただいている。その結果については、集団生活になじむかどうかを親御さんに心構えをしてもらうために、一人一人に検査の結果を報告して小学校の集団生活に備えていただくような事業を行っている。

- ・(委員) 発達障害については早期に発見し対応してることが大切であることから、4歳児検診を行っている。また、小学校についても支援学級の支援員を手厚くし、他の市町から評価をしていただけるような支援をしているところ。

⇒(事務局等)今年度の10月から、子育て世代包括支援センターを保健センターに設置する。子育てに関するワンストップ窓口として、そこでは特性のある子どもとその母親等母子保健を含めた総合相談窓口として、総合的な支援を行っていく。

- ・(委員) SSCやSSWが常勤でいらっしゃるわけではないと思う。そのような事業が充実していることであれば、もっとPRしていただきたい。

- ・(委員)今年度から子育て包括支援センターを設置していくという認識でよいか。

⇒(事務局等) はい。

- ・(委員)「8-3 学力アップ推進プロジェクト事業」において受講者数が減っているように見受けられる。何か原因があるのか。

⇒(事務局等) H28年度に比べてH29年度の受講者数が減っているが、この事業の内容として放課後の補充学習事業と土曜日の補充学習事業を行った人数の集計ということで提示している。H28年度はそれに加えて、夏休みの補充学習を行っている。H29年度については、中学校の教室等の大規模改修をおこなっていたので、そのため夏休みの補充学習を行っていない。その影響での人数減となっている。

【会長】

基本目標③の8事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

- ④ 安心と安全をベースに新しい協働のまちづくりを実現する
事務局から説明

－質問等－

- ・(委員) 防災無線は消防分団についているようなものか。
⇒(事務局等) はい。防災行政無線については聞こえにくいとの意見があったため、一昨年に消防団の協力をいただきテストを行ったところ。その中で、非常に聞こえにくい箇所が3か所あったので設置させてもらった。
- ・(委員) 「9-2 防止対策強化事業」の訓練参加者数の目標値が500人だが、H29年度の参加者数が809名の参加で、昨今の災害対応について訓練の参加は非常に大切になってきている。目標値の上方修正や、より積極的に行っていく方向にした方がよい。
⇒(事務局等) 訓練でいえば、これで安全ということはない。これまで取り組めていなかったが、町民参加型の実践的な避難訓練というのを今年度から取り組みたいと検討している。
- ・(委員) 唐津地区の原発報道があった場合の避難受入れの公民館として指定されている公民館があるが、公民館でそのような受入れを行うことがあるということを知った地域の方々に、防災意識向上も含めて掲示を行ってみてはどうか。土砂災害についての掲示板を設置してもらうことで、意識をすることができたので、意識向上にもつながるのではないか。
⇒(事務局等) 避難所の指定は2区と7区で対応してもらっている。町内でいえば、予備避難所としての位置づけをしてもらっている。そのような意味では設置について検討していきたい。
- ・(委員) 平成30年7月豪雨での丸林地区では土石流の被害があったが、土石流被害の想定を超えている。山間部では防災啓発の見直しが必要ではないか。
⇒(事務局等) 今指定をしているレッドゾーンやイエローゾーンについては、今回の土石流被害はまさに指定どおりであったといえる。指定どおりということであれば、そこに住んでいらっしゃる方についてはより一層、説明や話し合いを行って一定量の雨が降った場合や警報が出た場合は速やかに避難をしていただくシステムを構築する必要があることを今回の災害の中で再認識したので、実施していきたい。
- ・(委員) 「10-2 町内住み替え等の推進による定住促進プロジェクト」について、PFI事業は非常に有効的だと考えるが、進捗や世帯数の想定はどの程度か。
⇒(事務局等) PFIの整備状況と入居の状況であるが、整備状況については現在建設

中である。最終的な入居は来年の3月末を想定している。30世帯の入居を想定して入居者の募集中であり、現時点において10世帯程度の入居受付を行っている。受付の期間は10月の末までとなっている。

- ・(委員)「10-1 住まいるプロジェクト」の市街化区域(農地)の宅地開発面積の数値については、残存農地面積のことかそれとも宅地開発可能面積のどちらの意味か。

⇒(事務局等)宅地開発が可能な面積という認識。H27~H29の実績数値は、それぞれの年度で記載の数値の開発を行ったということである。

【会長】

基本目標④の7事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

⑤ 自然と歴史・文化・スポーツを活かしたまちづくり

事務局から説明

—質問等—

- ・(委員)合宿所の利用状況(宿泊)についていかがか。

⇒(事務局等)合宿所は今年の5月に開所したところ。現在では、月に約100人の利用があり今後増えていくと考えており、土日を中心に利用をいただいている。

- ・(委員)高校の部活動などの宿泊の利用を考えているのか。

⇒(事務局等)おおよそスポーツ団体の利用と青少年育成等の研修、学校の先生の研修に利用を考えている。また、大学のゼミ等で申し込みをいただいているところで、定額で利用できることから研修での利用をPRしていきたい。現在、全国の自治体と各学校にも案内の発送の準備をしているところで、利用の促進を図っていきたい。

- ・(委員)RESASアカデミー事業の実績、やアンケートの内容がわかる資料をいただきたい。また、平成30年度以降もこのような取組を行うのか。

⇒(事務局等)資料等については、提出できるものがあれば提出したい。また、今年度も10月くらいから各3回程度で開催を予定している。今年度から基山町のひとつづくり大学の一つとしてメニューに組み込み、今後も継続的に行っている。

きたいと考えている。

- ・(委員)「11-1 文化財・文化遺産再発見事業」に関して、駅前の長崎街道沿いは歴史的な風景としては非常に特別な場所かと考えているが、この長崎街道沿いについて歴史的風致との関係はどのようになっているか。

⇒(事務局等) 現在、歴史的風致維持向上計画を策定している。基山は基肆城を中心として重点区域を検討しているところ。「11-1 文化財・文化遺産再発見事業」の事業の中で、文化財や歴史関係のガイドなどで基山の歴史や長崎街道を紹介しているところ。

【会長】

基本目標⑤の7事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

⑥ 高齢者・障がい者（児）にやさしいユニバーサルなまちづくり
事務局から説明

—質問等—

- ・(委員) 多世代交流センターは平成30年度の開所か。

⇒(事務局等) 平成29年度に老人憩の家を改修・増築し、今年度の4月からの開館となっている。

- ・(委員) 数値目標の満足度指数が記載されているが、次の調査時期はいつごろとなるか。

⇒(事務局等) 総合戦略を5年間の計画で策定しているので、5年が経過したところで再度調査することになると思われる。平成31年度の後半平成31年度が終了してすぐになるかと思われるが、調査時期については検討する。

【会長】

基本目標⑥の4事業は、総合戦略のKPI達成に有効であると評価してよいか？

⇒承認

(2) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略（修正案）について
事務局から説明

－質問等－

- ・(委員)「2-3 UIJターン&若者の就労支援プロジェクト」のKPIに新たに加えられた無料職業紹介所の設置については、労働局との連携が必要であると認識していたが、町が独自で行えるのか。

⇒(事務局等)自治体の届出で開設できる無料職業紹介所となっていて、集落支援員等の支援を受けていく予定で取り組んでおり、子育て支援や福祉との連携を深めながらきめ細やかに取り組んでいこうと考えている。

- ・(委員)「2-3 UIJターン&若者の就労支援プロジェクト」のKPIに記載している「無料職業紹介所」と「7-2 地域ぐるみの子育て応援プロジェクト」のKPIに記載されている「基山町版ハローワーク」は同じものか。

⇒(事務局等)標記の違いがあるが、内容は同一のものである。

- ・(委員)同じものであれば、標記を同一にした方がよい。また、「2-3 UIJターン&若者の就労支援プロジェクト」の雇用創出目標値が30人と設定されているが、基本目標の「①基山町における新たな雇用を創出する」の各事業の中でも雇用創出目標値があげられているため、基本目標①の数値目標のなかでかぶっていくが、どのように考えればよいか。

⇒(事務局等)現在あげているのは、該当する事業の中での数字と考えている。ご指摘の件については、担当部署と検討していく。

- ・(委員)内容は一つ戻るが、基本目標①の事業効果がその他の基本目標の事業効果と比べて見劣りするが、三年間事業がおこなわれてきてなかなか目標値に対して未達という状況が続いている。そういう中で、当初に設定された目標値が適切であるかどうかを実績に応じて見直していく必要があるのではないかと。また、頭打ちになってきている事業も多く見受けられるため、てこ入れをしていく必要があるのではないかと。

- ・(委員)基山PAのふるさと名物市場について、午後5時以降に集客があるように見受けられる。開店時間をのばせば、基本目標①の事業効果も伸びていくのではないかとおもう。

⇒(事務局等)産業振興協議会の総会でも同様の意見があがっており、現在試験的に8月いっぱい土日について営業時間を1時間延長しデータを収集している。収集したデータは産業振興協議会の中で、改めて検討等を行っていきたいと考えている。

【会長】

事務局からの説明に対し、異議がある方はいらっしゃいますか。

⇒異議なし

(3) その他

- ・(町長) 移住や転出の話について、人口の社会動態は平成26年度転出の方が82人多く平成27年度は転出が93人多かったが、平成28年度から転入が92人多くなり平成29年度は13人多く、平成30年度は4か月であるが32人多いという動向となっている。外国人の方の転入の数字も入っているが、方向としてはこの会議と一体的に変わってきていると感じている。しかし、人口が増えていない理由としては、自然動態の減少が非常に多くなっているからであり、一方で自然動態の増加が伸びきっていないため、自然動態全体の動きとしてはマイナスとなっているからである。流れとしては、少しでもプラスになっており、モール商店街では4年前の空き店舗は10店舗あったが現在では1店舗となっていることから、着実に変わってきているといえる。農地の話については、耕作放棄地と残存農地の問題は全く別のものであり、残存農地については線引きの見直しや都市計画の話など抜本的に行わなければならないことが多いため、県や国と進めていきたい。エミューの飼育数については、直近では500羽が目標であるが長期的な目標はまだ定めていないので、今後関係者と検討していきたい。空き家については、9月1日から不動産専門の方を採用する予定なので、マッチングをどんどん行っていきたい。大事なことは、町内に162の空き家があるが相続問題等司法的なことがあるため、これについて解消していきたい。単純に空き家が増えているだけでなく、空き家が解消しているものもあるが、それ以上に新たな空き家が増えていることもある。特性のある子どもについては、保育園に9月1日から社会福祉士の資格をもち長年障がい施設に勤めてあった方を採用することとしている。非常勤ではあるが、臨床心理士も複数名雇っている。防災については、特に今であればいろいろな方の協力をいただけておもうので、今年度下半期については力を入れていきたいと考えている。合宿所については、先日中国の小学生が30名2日間利用してもらい、基山の子と交流してもらった。このようなことを活用していければ、合宿所の活用や国際交流の発展につなげていくことができる。試行錯誤しながら事業にとりくんでいっているのので、今後とも委員の方々のご指導をいただきたい。

～11時40分閉会～